

令和6年能登半島地震における 和歌山県支部の活動

令和6年 能登半島地震災害

令和6年1月1日に最大震度7を記録した能登半島地震は、死者245人、行方不明者3人、重軽傷者1,307人、建物損壊119,387棟（総務省消防庁情報令和6年4月26日発表）等の被害を引き起こしました。この災害に対し、日本赤十字社は、発災当初から全社を挙げて支援体制をとり、超急性期の傷病者の診療から長期にわたる支援まで、様々な活動を行いました。

医療救護

和歌山県支部からは、日本赤十字社和歌山医療センターの医師、看護師等で構成する救護班9班（76名）、医療コーディネートチーム3班（12名）、DMATロジスティクスチーム2班（2名）を派遣し、輪島市等の避難所で医療救護活動を展開しました。

こころのケア

和歌山県支部からは、2班（8名）のこころのケア班を派遣し、被災し避難生活が続ける住民の方々のメンタルケアにあたりました。

支部支援

被災地である石川県支部の業務を支援するため、和歌山県支部の職員1名を派遣しました。



令和6年 能登半島地震における日本赤十字社全体の活動

職員派遣

- 救護班（DMAT含む）
延べ**342班**を派遣
- 日赤災害医療
コーディネートチーム
延べ**119チーム**を派遣
- こころのケア班（調整班除く）
延べ**44班**を派遣
- 支部支援要員
68人を派遣

ボランティアの活動

- 赤十字ボランティア
延べ**1,709人**が活動

救援物資の配付

- 毛布 **16,005枚**
- 安眠セット **5,230セット**
- 緊急セット **2,224セット**
- その他
携帯型簡易トイレ3,400個 等

近い将来、大規模な災害を起こすとされている南海トラフ地震をはじめ、令和6年能登半島地震のように全国で発生する様々な災害に対する備えを万全なものとするため、活動資金へのご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和5年度
日本赤十字社
和歌山県支部

収支決算概要

歳入 **298,698千円**

個人からの
会費・寄付金収入
156,562千円

法人からの
会費・寄付金収入
33,963千円

その他の収入
108,173千円

歳出 **235,140千円** 歳入歳出差引額（翌年度繰越金）**63,558千円**

災害救護活動・救護体制の強化に

64,668千円

- 令和6年能登半島地震災害への救護班等の派遣
- 救護班要員等の育成、災害救護訓練や研修の実施
- 災害物資の備蓄、救護資機材の整備

生命と健康を守る講習及び赤十字ボランティアの活動に

27,029千円

- 救急法等の各種講習会の実施
- 奉仕団を推進できるボランティアの養成

市町村での赤十字活動に

10,748千円

- 各市町村での救護資機材の整備
- 各地域でのボランティア活動

赤十字会員の募集や広報活動に

25,798千円

- パンフレット、広報誌の作成
- ダイレクトメールの送付

運営管理等の経費に

106,897千円

赤十字奉仕団の活動紹介

かつらぎ町赤十字奉仕団

赤十字奉仕団子ども食堂

子ども食堂をきっかけに「地域の繋がりが増えたら」とチャレンジしました。月1回のペースで運営し、「子どもたちに喜んでほしい」という思いで、毎回皆で話し合っメニューを提供しています。今後は地域を拡大しての運営や、高齢者の方にも来てもらい、幅広い年齢層が繋がり、笑顔となれる場所を目標に、団員一丸となって取り組んでいきたいです。



那智勝浦町赤十字奉仕団

「道の駅なち」清掃活動

週に1度、「道の駅なち」のトイレ清掃のお手伝いを行っています。「道の駅なち」は観光の玄関口であるため、町外の方々に少しでも気持ちよく過ごしてほしい、という思いで活動しています。また、団員の参加数が多いときは、道の駅周辺の草刈りも行っています。掃除はすぐに結果が出て、きれいになったら清々しい気分になります。これからも、奉仕団活動の一つとして継続していきます。



日本赤十字社
和歌山県支部
Japanese Red Cross Society

〒640-8137 和歌山市吹上二丁目1番22号
TEL:073-422-7141 FAX:073-422-7148
<https://www.jrc.or.jp/chapter/wakayama/>

日本赤十字社
和歌山県支部
Japanese Red Cross Society

2024年8月

日赤和歌山

- 活動報告
- 活動資金のご協力について
- 令和6年能登半島地震における活動
- 令和5年度収支決算概要
- 赤十字奉仕団の活動紹介

赤十字は、 動いている！

あなたと想いをひとつにして。



活動報告

第69回 和歌山県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センターを開催

令和5年8月9日(水)10日(木)に、和歌山市青少年国際交流センターにて、第69回和歌山県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センターを開催し、和歌山県内の小学校12校から64名、中学校2校から8名、高等学校3校から6名の計78名が参加し、車いす体験、高齢者疑似体験、炊き出し体験、救急法、防災クラフトづくりなどに取り組みました。参加者からは、「助け合うことは大切だということに気づいた。」「色々な事を体験させてくれたので、とても勉強になった。」「他の学校の生徒と友達になれた。」「来年も参加したい。」などの意見が多くありました。これからの赤十字活動の未来を担う青少年が実践活動を通して、自ら「気づき、考え、実行」できる学びの機会を提供し、赤十字思想をもった子どもたちの育成を行っています。



第41回 NHK海外たすけあいキャンペーンの実施

日本赤十字社では、毎年12月1日～25日の期間、日本放送協会(NHK)及びNHK厚生文化事業団との共催で紛争や災害、飢餓などで苦しむ世界の人々を支援する「NHK海外たすけあい」キャンペーンを開催しています。和歌山県でも、令和5年12月1日(金)に、県内で活動いただいている地域赤十字奉仕団18団・約200名の協力を得て、各地域において一斉に啓発活動及び街頭募金活動を行いました。JR和歌山駅前において、和歌山県支部としても同日、和歌山市大新赤十字奉仕団、同宮北赤十字奉仕団の協力を得て、啓発活動を実施しました。



第34回 (令和5年度) 和歌山県赤十字奉仕団大会を開催

第34回和歌山県赤十字奉仕団大会を、令和5年12月7日(木)和歌山城ホール小ホールにて開催しました。この大会では、永年にわたり赤十字奉仕活動にご尽力いただいている方々に対して、日本赤十字社業務功労表彰を行っています。式典では、来賓、受賞者、赤十字奉仕団委員長及び地区区分担当者など県内から約230名が参加し、金色有功章の個人と団体、銀色有功章、支部長感謝状のそれぞれの代表者に日本赤十字社和歌山県支部 岸本周平支部長から有功章、支部長感謝状が授与されました。また、令和5年度から初めて、優良赤十字奉仕団表彰を行い、太地町赤十字奉仕団に表彰状と認定証が授与されました。



「赤十字運動月間」の啓発活動を実施

日本赤十字社では、毎年5月を「赤十字運動月間」として、活動を支えて下さる赤十字会員の募集を強化するキャンペーンを全国で展開しています。キャンペーン期間中は和歌山県内各地域において、それぞれの地域赤十字奉仕団(赤十字ボランティア)が啓発活動を行っています。令和6年5月7日(火)には県内各地域で活動いただいている地域奉仕団13団129名の協力を得て、一斉にキャンペーン活動を行いました。日本赤十字社和歌山県支部においても、JR和歌山駅前で和歌山市大新赤十字奉仕団及び和歌山市宮北赤十字奉仕団、和歌山大学WAP学生赤十字奉仕団、近畿大学生物理工学部学生赤十字奉仕団、東京医療保健大学看護学部赤十字奉仕団の協力を得て、啓発用ポケットティッシュの配布等を行いました。



令和6年 全国赤十字大会に参加

令和6年5月15日(水)、日本赤十字社名誉総裁の皇后陛下、名誉副総裁である秋篠宮皇嗣妃殿下、常陸宮妃華子殿下、寛仁親王妃信子殿下、高円宮妃久子殿下のご臨席を仰ぎ、令和6年全国赤十字大会が明治神宮会館において開催され、和歌山県支部からの19人(支部役員、有功会員、活動資金協力者、赤十字奉仕団委員長、支部・施設職員)を含む、全国の赤十字関係者約1,600人が参加しました。



令和6年度 第1回評議員会を開催

令和6年6月4日(火)、和歌山県日赤会館3階会議室において、令和6年度第1回日本赤十字社和歌山県支部評議員会を開催しました。評議員会とは、県内における赤十字会員の皆様から選出された評議員の方々に、本県支部、医療センター及び血液センターの事業計画・報告や予算・決算などの重要な事項をご審議いただく場です。今回の評議員会では、令和5年度の事業報告、歳入歳出決算についてご審議いただき、承認されました。



和歌山県日赤有功会総会の開催

令和6年6月11日(火)、和歌山市内のホテルアバローム紀の国において、第51回和歌山県日赤有功会総会及び懇親会を開催しました。総会では、令和5年度の事業報告と収支決算、令和6年度の事業計画(案)と収支予算(案)、役員改選を審議していただき、全議案が承認されました。



第28回 日本赤十字社第4(近畿)ブロック 合同災害救護訓練を実施

令和6年6月15日(土)、和歌山県支部の担当により、日本赤十字社第4(近畿)ブロック合同災害救護訓練を和歌山市加太の和歌山県消防学校にて実施し、第4ブロック各府県支部日赤災害医療コーディネートチーム、常備救護班、赤十字奉仕団等のボランティア、各支部職員等、総勢550人が参加しました。今後30年以内に70～80%の確立で発生し、和歌山県にも甚大な被害が予想される南海トラフ地震を想定して、和歌山県・和歌山市の職員も参加し、救護所や避難所で活動する常備救護班の指揮・管理の訓練、行政と協働して被災時の連携を図るための訓練を行いました。その他、避難所でのアセスメント(状況調査)訓練やダンボールベッドの設営訓練、トンネル崩落を想定した現場救護所訓練、こころのケア訓練、ボランティア訓練等、近年増加する災害に赤十字として即応できる体制を整えられるよう実践に即した訓練を実施しました。



赤十字活動資金のご協力について

日本赤十字社が行う人道支援活動は、皆さまからのご寄付によるご支援で行われています。継続的なご寄付が、「いざ」というときの迅速で最適な支援や、普段からの備えを可能にします。ぜひ、個人の方も法人の方も会員となって日本赤十字社の活動をご支援ください。



ご協力方法

- 郵便局(ゆうちょ銀行)からの送金
(口座番号：00930-4-313327／加入者名：日本赤十字社和歌山県支部)
※振込先等を記載した「専用振込用紙」もごございますので、ご連絡ください。
(TEL:073-422-7141)
- 日本赤十字社和歌山県支部(和歌山県和歌山市吹上二丁目1番22号)窓口でのご協力
- お住いの市町村窓口(地区・分区)でのご協力